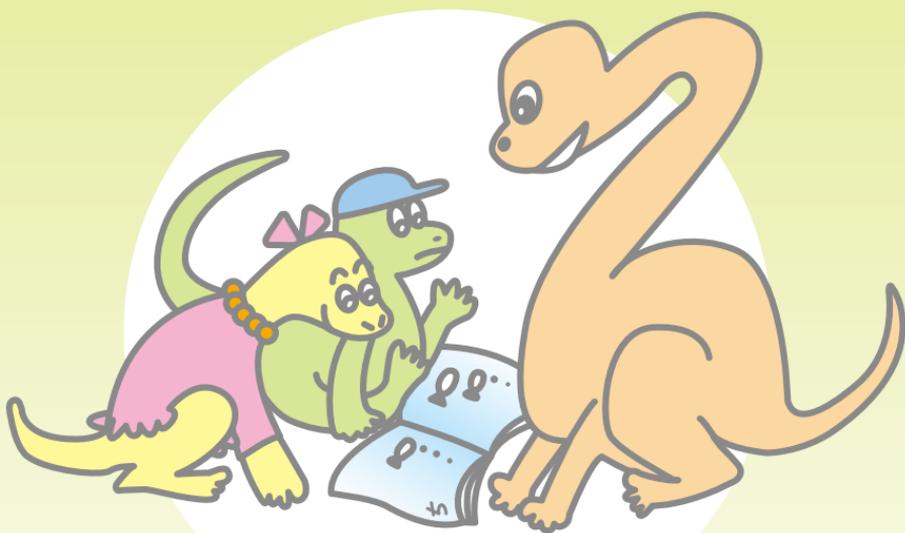


えほん だいすき

3さい～5さい



西東京市図書館

－ 発行にあたって －

西東京市では、「絵本と子育て事業」(絵本を通じての親子の触れ合いと、共に過ごす時間の楽しさや大切さなどを知っていただくために、3～4か月児健康診査時に読み聞かせの実演や、絵本を贈る事業)を行っています。

平成15年度からスタートしたこの事業は、13年目になり、この間、たくさんの親子との出会いがありました。

乳児期を卒業したお子さんが、これまで以上に絵本の世界を楽しんでいただけるよう、このリストをお贈りします。

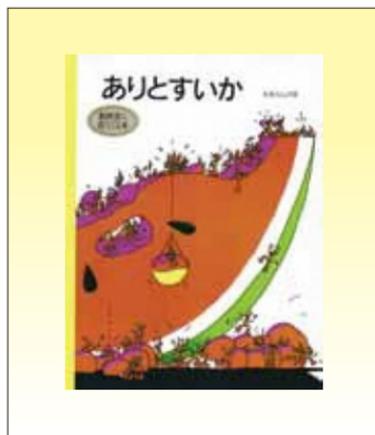
3～5歳頃のお子さんは、絵本が大好き。この頃は、語彙が増え、言葉を使って思考する力が育ち始めます。人生で最も絵本の読み聞かせを楽しめる「読み聞かせ黄金期」と呼ばれています。

ご家族で過ごす空間に一冊の絵本があると、お子さんと過ごす楽しさが何倍にもふくらみます。

このリストが、そんな幸せなひとときのお手伝いとなりましたら幸いです。

あいとすいか

◆ たむらしげる 著 ◆ ポプラ社



あるあついなつのごご、ありがすいかを見つけました。おいしいすいかをすにはこぶことにしましたが、おおきなすいかはおもたなくて、もてません。ありは、なかまをよんでくることにしました。さあ、ありたちはどうやってすいかをはこぶのでしょうか？

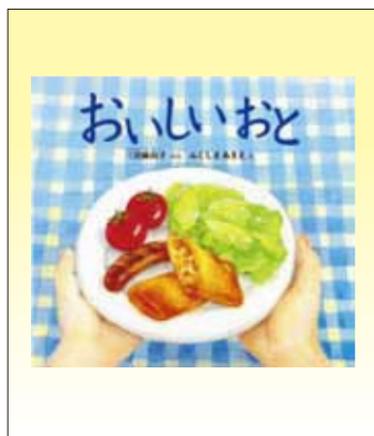
おいしそうなすいかが登場する夏にぴったりの絵本です。

おいしいおと

◆ 三宮麻由子 文 ◆ ふくしまあきえ 絵 ◆ 福音館書店

おいしいおとってどんなおと？
「カコッ ホッ カル カル カル」。
はるまき、ほうれんそう、ごはん
にみそする。たべたらどんなおと
がするのかな。

ご飯を食べるのが楽しくなる
絵本です。



おおきなかぶ -ロシアの昔話-

◆ A.トルストイ 再話 ◆ 佐藤忠良 画 ◆ 内田莉莎子 訳 ◆ 福音館書店



おじいさんがおおきなかぶをひきぬこうとしています。

「うんとこしよ どっこいしょ」なかなかかぶはぬけません。そこで家族や動物たちも力をあわせてかぶをひっぱります。

ロシア民話を題材として、リズムカルでくり返しの文章が、とても楽しい絵本です。

おじさんのかさ

◆ 佐野洋子 作・絵 ◆ 講談社

りっぱなかさがぬれるのがいやで、かさをさそうとしないおじさん。ある雨の日、子どもたちの歌をきいたおじさんは、はじめてかさを広げってみました。

すると…。

雨の日におじさんは素敵なことを発見しました。



おしゃべりなたまごやき

◆寺村輝夫 作 ◆長新太 画 ◆福音館書店



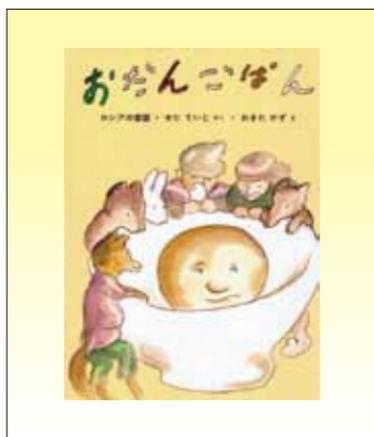
王さまがたべようとしたためたまやき。まんなかをぷつりとわると、なかから王さまのこえが『だれにもいうなよ…』。王さまのひみつとはなんでしょう。

ユーモラスな文章と画家の絵がぴったりマッチして楽しめます。

おだんごぱん —ロシアの昔話—

◆せたていじ 訳 ◆わきたかず 絵 ◆福音館書店

むかし、おじいさんが、なにかおいしいものがたべたくなって、おばあさんにいいました。「ばあさんや、ひとつ、おだんごぱんをつくってくれないか」こうして、こしらえられたおだんごぱん。外の世界にとびだして、おだんごぱんを食べたがるいろいろな動物とであい…。おだんごぱんの表情が愉快です。



おちやのじかんにきたとら

◆ジュディス・カー 作 ◆晴海耕平 訳 ◆童話館出版



ソフィーとおかあさんが、おちやにしようとしたら、おおきなとらがやってきました。とてもおなかがすいているというとらと、いっしょにおちやをすることに。サンドイッチ、パン、ケーキ…とらは、ぜんぶたべてしまいました。まだまだおなかがすいています。何でも食べるとらにビックリしますよ。

おばけのてんぷら

◆せなけいこ 作・絵 ◆ポプラ社

たべることがだいすきなうさこは、てんぷらをつくることにしました。やさいをきって、ころもをつけて、あぶらであげて、おいしいてんぷらがたくさんできました。すると、てんぷらのおいをかぎつけたおばけが、うさこのいえにやってきました。

子どもたちの大好きなおばけが登場する、楽しい絵本です。



おばけのバーバパパ

◆アネット＝チゾンとタラス＝テイラー 作 ◆やましたはるお 訳 ◆偕成社



フランソワのうちのにわでうまれたバーバパパは、じぶんのすがたをかえられるおばけです。はじめはひとりぼっちで、さびしかったバーバパパでしたが、あることがきっかけで、まちじゅうのにんきものになることができました。

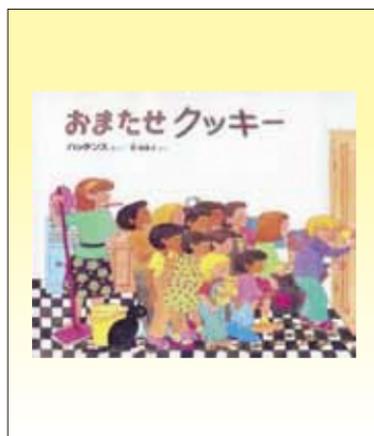
バーバパパと家族の楽しいお話は、他にもあります。

おまたせクッキー —友だちとたのしいおやつ!—

◆パット＝ハッチンス 作 ◆乾侑美子 訳 ◆偕成社

さあ、おやつのはじかんです。おかあさんがやいてくれたクッキーを食べようとすると、げんかんのベルがなり、友だちがやってきました。また、食べようとすると、ベルがなり、次々と友だちがやってきて…。

色鮮やかな絵が印象的で、繰り返しが楽しい絵本です。



おやすみなさいフランス

◆ラッセル・ホーバン 文 ◆ガース・ウィリアムズ 絵 ◆松岡享子 訳 ◆福音館書店



よる、フランスのねるじかんになりました。ミルクをのんで、おとうさんとおかあさんに「おやすみなさい。」をいって、ベッドにいきましたが、ちっともねむくなりません。そこで、フランスはじぶんでつくったうたをうたうことにしました。

なかなか寝付けない子どもの気持ちが描かれたお話です。

かいじゅうたちのいるところ

◆モーリス・センダック 作 ◆神宮輝夫 訳 ◆富山房

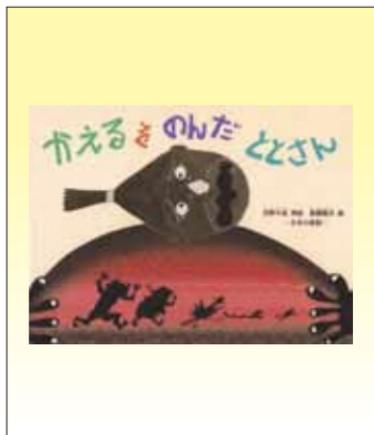
おおかみのぬいぐるみをきて
おおあばれのマックス、しんしつ
からこうかいにでて、やってき
たのは、かいじゅうたちのいる
ところ。

個性的なかいじゅうたちの絵
が楽しく、子どもの冒険心がくす
ぐられます。



かえるものんだととさん ー日本の昔話ー

◆日野十成 再話 ◆斎藤隆夫 絵 ◆福音館書店



ととさんとかかさんは、なかのいいふうふ。あるひ、ととさんの、はらがいたくなった。かかさんにそうだとすると、てらのおしょうさまにきいてみるといいという。さっそくおしょうさんのところへいったととさん。ととさんのはらは、なおるでしょうか？

節分に関連した昔話です。

かさじぞう ー日本の昔話ー

◆瀬田貞二 再話 ◆赤羽末吉 画 ◆福音館書店

あみがさうりのじいさんは、まちでかさを五つうって、ばあさんともちをたべようとおもいました。けれど、ぜんぜんうれません。かえりみち、ふぶきにさらされている穴にんのじぞうさまをみたじいさんは…。

筆のタッチが印象的な絵本です。



かにむかし

◆木下順二 文 ◆清水崑 絵 ◆岩波書店



かにがひろってうえた、かきのたね。せっせとそだてて、たくさんみつけたとき、山のうえからさるがやってきて…。

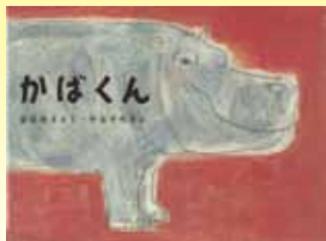
有名な日本の昔話を大きな絵本として、のびやかにえがいています。

かばくん

◆岸田衿子 作 ◆中谷千代子 絵 ◆福音館書店

どうぶつえんの、かばくんとちびのかばくん。にちようびは、たくさんのかどもたちがどうぶつえんにやってきます。かばくんたちは、こどもたちをみにいたり、みずのなかをおよいだり、きゃべつをたべたり、たのしいいちにちをすごします。

かばくんたちの穏やかで楽しい生活を描いた絵本です。



からすのパンやさん

◆かこさとし 著 ◆偕成社



からすのまちいずみがもりの、からすのパンやさん。6人かぞくでつくったおやつパンが大人気で、まちは大そうどうになりました。

いろいろなおかしパンが、とても楽しく、おいしそうです。

ぎょうれつ ぎょうれつ

◆マリサビーナ・ルツォ 絵と文 ◆青木久子 訳 ◆徳間書店

「ごはんですよ」とおかあさんによばれたサムは、だいどころまでぎょうれつぎょうれつ。さいしよはつみき、そして、ほん、くつにおもちゃにそして… ぼく。

日常のいきいきとした子どもの姿と、それを見守るおかあさんの姿をよくとらえています。



きょだいな きょだいな

◆長谷川摂子 作 ◆降矢なな 絵 ◆福音館書店



ひろいのっぱらのどまんなか
にあるきょだいな〇〇、こどもが
100にんやってきて…。いろいろ
なことがおこります。

リズムカルなくりかえしの文
章が耳にこちよく感じられま
す。

くまのコールテンくん

◆ドン=フリーマン 作 ◆松岡享子 訳 ◆偕成社

デパートのおもちゃうりばに
いた、くまのコールテンくんにお
ともだちができました。それは、
自分のちよきんで買ってくれた
少女リサ。

ぬいぐるみと少女の心のふれ
あいが心温まります。



ぐりとぐら

◆中川李枝子 作 ◆大村百合子 絵 ◆福音館書店

「ぼくらのなまえはぐりとぐら このよでいちばんすきなのは
おしょうりすることたべること ぐりぐらぐりぐら」ふん
わりやけたかすてらが、おいしそう。

どっちが、ぐりかぐらか、わかるかな。

ぐりとぐらのお話は、他にもあります。



ぐるんぱのようちえん

◆西内ミナミ 作 ◆堀内誠一 絵 ◆福音館書店



ずうっとひとりぼっちですごしてきたぞうのぐるんぱ。はたらきにでてもしっぱいばかりのぐるんぱが、最後にはようちえんをひらいて大成功をおさめます。

「こんなようちえんがあったらいいな」と子どもに思わせます。

くんちゃんのだいいょこ

◆ドロシー・マリノ 文・絵 ◆石井桃子 訳 ◆岩波書店

さむくなってきたある日、子ぐまのくんちゃんは、とりが「みなみのくにへとんでいく」というのをきいて、いきたくなりました。おかあさんに「ぼくもいいいい？」ときくと、おかあさんは「くまはふゆはねむるのです」といいました。

くんちゃんのシリーズは他にも6冊あります。



こすずめのぼうけん

◆ルース・エインズワース 作 ◆堀内誠一 画 ◆石井桃子 訳 ◆福音館書店



おかあさんすずめからとびかたをならったこすずめ。とぶのがたのしくおもしろいとおもったけれど、はねがいたくなってきました。どこかでやすみたいとおもったこすずめは…。

情景が鮮やかに浮かび上がる絵本です。

こんとあき

◆林明子 作 ◆福音館書店

「こん」は、おばあちゃんがつくってくれたきつねのぬいぐるみです。あきは、うまれたときからずっと「こん」といっしょです。あるひ「こん」のうでがほころびてしまったので、おばあちゃんのいえに、なおしてもらいにいくことにしました。

「こん」とあきの冒険が生き生きと描かれています。



さつまのおいも

◆中川ひろたか 文 ◆村上康成 絵 ◆童心社



つちのなかでくらしているおいも。ごはんもたべるし、トイレにもいきます。はたけにこどもたちがやってくると、みんなでつなひき。こどもたちにまけたおいもは…。

やきいものきせつに、ぴったりの絵本です。

三びきのこぶた —イギリスの昔話—

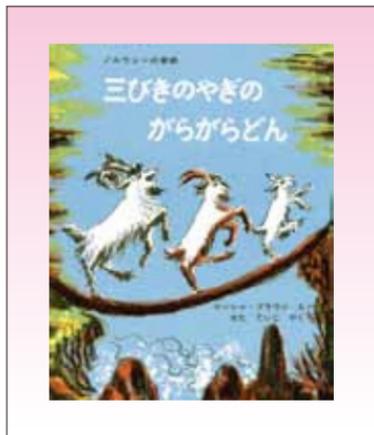
◆山田三郎 絵 ◆瀬田貞二 訳 ◆福音館書店

むかし、あるところに、三びきのこぶたがいました。一びきめのこぶたは、わらで、二びきめのこぶたは、えだでいえをたてましたが、おおかみがやってきて、いえをふきとばして、こぶたをたべてしまいました。三びきめのこぶたはどうしたでしょう？知っているようで知らない昔話を、楽しめる絵本です。



三びきのやぎのがらがらどん -ノルウェーの昔話-

◆マーシャ・ブラウン 絵 ◆せたていじ 訳 ◆福音館書店



三びきのやぎのなまえはどれも“がらがらどん”。きみのわるいトロールがすんでいる谷川の橋をぬけて、ぶじにやまのくさばへいけるのでしょうか？

北欧の民話を絵本にしています。

じゅう に し 十二支のはじまり

◆岩崎京子 文 ◆二俣英五郎 画 ◆教育画劇

むかし、あるとしのくれ、かみさまはどうぶつたちにおふれをだしたんだと。“しょうがつのあさ、ごてんにくるように。きたものから、十二ばんまでじゅんばんに一ねんずつ、そのとしのたいしょうにする”さあ、どうぶつたちはじぶんこそーばんのりだとおおさわぎしたと。

お正月に読みたい絵本です。



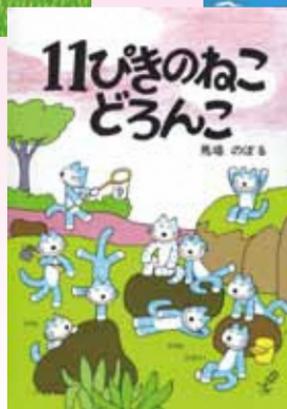
11ぴきのねこ

◆馬場のぼる 著 ◆こくま社

おなかがぺこぺこののらねこ11ぴき。大きなさかなをつかまえに、大きなみずうみにいかだにのってのりだしました。

11ぴきのねこは、さかなをつかまえられるかな？

11ぴきのねこのお話は、他にも5冊あります。



あてきな三にんぐみ

◆トミー＝アンゲラー 作 ◆今江祥智 訳 ◆偕成社



くろマントにくろいぼうしの
どろぼう三にんぐみ。たからあつ
めにおそったばしやには、みなし
ごのおんなのこがひとり。おんな
のこのひとことで、三にんぐみは
すてきなたからのつかいかたを
思いつく。

影絵のような三にんぐみの絵
が印象に残ります。

せんろはつづく

◆竹下文子 文 ◆鈴木まもる 絵 ◆金の星社

子どもたちがせんろをつなげ
ます。のはらのまんなかをとあつ
て、やまがあつたらあなをほって、
かわがあつたらはしをかけて…
せんろはどんどんつづきます。

リズムカルな文と元気な子ど
もたちの姿が楽しい絵本です。



そらいろのたね

◆中川李枝子 文 ◆大村百合子 絵 ◆福音館書店



ゆうじがひこうきととりかえた、もりのきつねのもっていたたね。たねは、そらいろのいえになり、どんどん大きくなってたくさんのだうぶつたちと、ともだちがはいります。

ぐりとぐらの著者が作った、子どもの夢あふれる絵本です。

そらまめくんのベッド

◆なかやみわ 作・絵 ◆福音館書店

そらまめくんのたからものは、くものようにふわふわで、わたのようにやわらかいベッド。そのベッドがなくなって、そらまめくんはおおあわて。ベッドはどこへいったのでしょうか？

そらまめくんのお話は他にも5冊あります。



だいくとおにろく

◆松居直 再話 ◆赤羽末吉 画 ◆福音館書店



ながれのはやい、おおきなかわに、はしをかけることになっただいく。そのまえにあらわれたおには、だいくのめだまをよこしたら、かわりに、はしをかけてやるという。そして、はしをつくり、おにはだいくに、めだまをよこせというが…。

だいくとおにのやり取りに引き込まれる、語り継がれてきた昔話。

だるまちゃんとてんぐちゃん

◆加古里子 作・絵 ◆福音館書店

ちいさいだるまちゃんは、ちいさいてんぐちゃんもっているものがほしくてしかたありません。うちわ・ぼうし・はきもの、そして、はな。てんぐちゃんは、どんなはなをつくってもらったのかな？

だるまちゃんのお話は、他にもあります。



ティッチ

◆パット・ハッチンス 作・絵 ◆いしいももこ 訳 ◆福音館書店



ティッチは、ちいさなおとこの子でした。ねえさんのメアリは、ティッチよりちょっとおおきくて、にいさんのピートは、ずっとおおきな子でした。メアリやピートは、じてんしゃをもっていたけど、ティッチがもっていたのは「さんりんしゃ」。

三人きょうだいの、かわいらしいおはなしです。

でこちゃん

◆つちだのぶこ 作・絵 ◆PHP研究所

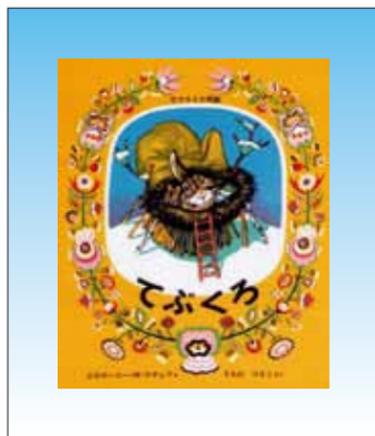
かみのけをきってもらったら、でこちゃんがおでこのでこちゃんになっちゃった。おでこがだいきらいになったでこちゃんに、おねえちゃんがおまじないをしてくれました。

表紙のでこちゃんがとても印象的です。



てぶくろ -ウクライナ民話-

◆エウゲーニー・M・ラチョフ 絵 ◆内田莉莎子 訳 ◆福音館書店



雪の降る夜、森の中でおじいさんがおとした、かたほうのてぶくろ。どうぶつたちが次々にやってきて、てぶくろのなかにすむことに。どんどん大きくなるどうぶつたちとてぶくろ。

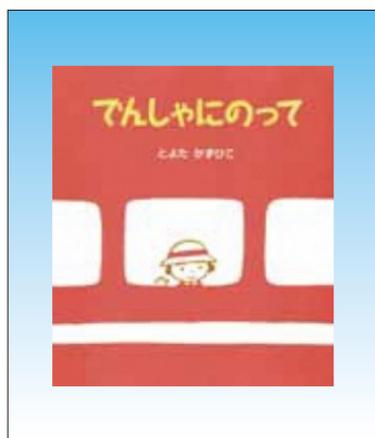
ページをめくるのがとても楽しくなります。

でんしゃにのって

◆とよたかずひこ 著 ◆アリス館

うららちゃんはでんしゃにのって、おばあちゃんのところへ、おでかけ。「ガタゴトー ガタゴトー」「つぎは、わにだー わにだー」『わにだ』えきで、でんしゃにのってきたのは、わにたち。えきにとまるたびに、いろいろなどうぶつがのってきます。

うららちゃんのお話は、他にもあります。



どうやって ねるのかな

◆やぶうちまさゆき 著 ◆福音館書店



どうぶつはどうやって、ねるのでしょうか？「シマリス」はまるくなってねます。「コウモリ」はさかさにぶらさがってねます。1ぼんあしでたってねるどうぶつもいれば、うみにうかんだり、すわってねるどうぶつたちもいます。動物たちの寝顔が愛らしい絵本です。

トマトさん

◆田中清代 作 ◆福音館書店

あつい、なつのひ。トマトのきから、まっかにうれたトマトさんがあちた。そばをながれるおがわでみずあびをする、ミニトマトやとかげたち。あつくてたまらなくなつたトマトさんは、からだがおもくてころがれない、となきでした。

迫力のある真っ赤なトマトさんの絵が、印象的な絵本です。



どれがぼくかわかる？

◆カーラ = カスキン 文・絵 ◆よだしずか 訳 ◆偕成社



ウィリアムのおかあさんは、ウィリアムのことならなんでもしています。だから、みんなのなかにも、どれがウィリアムなのかわかるのです。そこで、ウィリアムはうまのいるのはらへいき、うまになってみると…。おかあさんはわかるかな？

探すのが楽しいかくれんぼ絵本です。

どろんこハリー

◆ジーン・ジオン 文 ◆マーガレット・ブロイ・グレアム 絵
◆わたなべしげお 訳 ◆福音館書店

くろいぶちのあるしろいいぬハリー。おふるがいやでそとへにげだし、どろんこになってかえってくると、だれもハリーだとわかってくれません。そこでハリーは…。ハリーとみとめてもらえたときの喜びが、自分のことのように共感できます。ハリーの絵本は、他にも3冊あります。



ないしょのおともだち

◆ビバリー・ドノフリオ 文 ◆バーバラ・マクリントック 絵
◆福本友美子 訳 ◆ほるぷ出版



むかし、おおきないえに、マリーというおんなのこがすんでいました。またそのいえには、ネズミのおんなのこもすんでいました。マリーとネズミには、おなじようにかぞくがいました。

見開きで、左にマリーの生活、右にはネズミの生活。見比べて楽しい絵本です。

はじめてのおつかい

◆筒井頼子 作 ◆林明子 絵 ◆福音館書店

ままにはじめてのおつかいをたのまれたみいちゃん。ぶじ、ひとりでぎゅうにゆうをかってくることができるでしょうか？

だれもが体験するはじめてのおつかいの子どもの気持ちがよく表現されています。



はなをくんくん

◆ルース・クラウス 文 ◆マーク・シーモント 絵 きじまはじめ 訳 ◆福音館書店



冬眠していた動物たちが、かすかな春の気配を感じて目をさまします。みんなが、はなをくんくんさせて、かけて行った先には…一輪の花が。

白と黒だけの絵に、最後ぽつと黄色い花が印象的です。

つき パパ、お月さまとって!

◆エリック＝カール 作 ◆もりひさし 訳 ◆偕成社

あるばん、モニカがベッドにいてこうするとまどからお月さまがとてもちかくにみえました。「お月さまとあそびたいな。」と、てをのばしましたがとどきません。モニカはパパに「お月さまとって!」とたのみました。そこでパパは、ながーいながいはしごをもってきました。

しかけが楽しい絵本です。



はらぺこあおむし

◆エリック=カール 作 ◆もりひさし 訳 ◆偕成社



にちようびのあさにうまれたちっぽけなあおむしは、おなかがぺこぺこ。

いろいろなたべものをたべているうちに…。

あなのあいだページやしかけが、楽しいきれいな絵本です。

ピーターのいす

◆エズラ=ジャック=キーツ 作 ◆木島始 訳 ◆偕成社

ピーターのいえに、うまれたてのあかちゃん、いもうとのスージーがやってきます。ゆりかご・ベッドなどピーターがつかったものが、みんなピンクにぬられています。ピーターは、まだぬられていないいすをもって、いえでをすることにします。

お兄ちゃんの気持ちさが伝わってくる絵本です。



ふしぎなナイフ

◆中村牧江・林健造 作 ◆福田隆義 絵 ◆福音館書店



ここにふしぎなナイフがあります。このナイフは、ひとりでに曲がったり、ねじれたり、きれたり、ほどけたりします。そして、のびて、ちぢんで、ふくらんで…そんなことあるのかな？

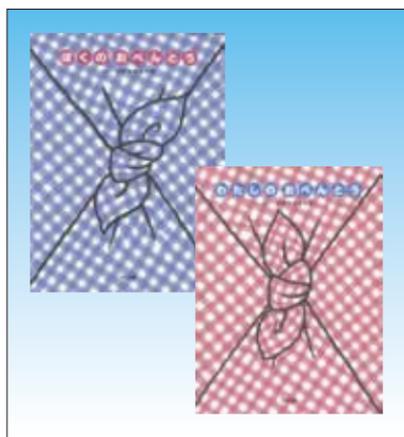
ナイフの質感が、不思議で美しい絵本です。

ぼくのおべんとう

◆スギヤマカナヨ 作 ◆アリス館

パカーン。おべんとうばこをあけると、いろいろなおかずとのりがのったごはんがはいつています。まずはたまごやき。つづいてからあげ。ミニトマトはてでたべようっと…。からっぽになっていくおべんとうばこを上から見た絵本です。

『わたしのおべんとう』もあります。



まあちゃんのながいかみ

◆たかどのほうこ 作 ◆福音館書店



おともだち2人の前で、まあちゃんは「ながーくのばしたかみ」についていろいろ想像をめぐらせ、お話します。

子どもたちもきっとかみのけをのばしてみたくなることでしょう。

まっくらネリ

◆ヘルガ = ガルラー 作 ◆やがわすみこ 訳 ◆偕成社

にいさんたちは、きれいないろをしているのに、きょうだいのなかでほくだけが、まっくらくら。なんで、ほくだけまっくらなの？あるひ、きれいないろのにいさんたちがつかまってしまった。さあ、ほくのでばんだ。にいさんたちをたすけるぞ。

黒色の背景が、色鮮やかにパステル画を引き立てています。



もいのなか

◆マリー・ホール・エッツ 文・絵 ◆まさきりこ 訳 ◆福音館書店



かみのぼうしをかぶり、あたらしいらっぱをもって、もりへ、さんぼにでかけます。すると、もりのどうぶつたちが、いっしょに、さんぼについてきました。みんなであそんでいると、おとうさんがむかえにきました。

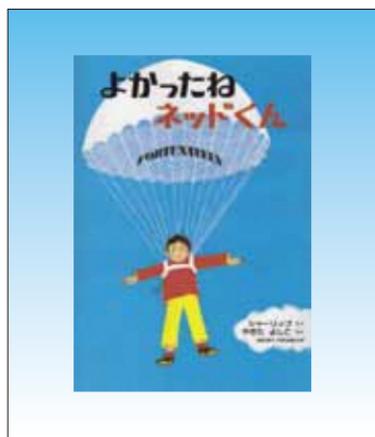
白黒の絵が印象的な絵本です。

よかったねネッドくん

◆レミー＝シャーリップ 作 ◆やぎたよしこ 訳 ◆偕成社

あるひ、ネッドくんにてがみがきました。「びっくりパーティーにいらっしゃい。」よかったね！でも、たいへん！パーティーはとおいフロリダでやるんだって…。フロリダをめざすネッドくん、いいこと、わるいことが、どんどんふりかかります。

日本語と英語の二つのリズムが楽しめる絵本です。



わゴムはどのくらいのびるかしら？

◆マイク・サーラー 文 ◆ジェリー・ジョイナー 絵

◆岸田衿子 訳 ◆ほるぷ出版



わゴムはどのくらいのびるの？あるひぼうやは、ためしてみます。へやから外へ、バス・飛行機そしてロケットにのっても、わゴムはどんどんのびていきます。

子どもの想像力を広げてくれる絵本です。

わたしのワンピース

◆にしまきかやこ 絵と文 ◆こぐま社

うさぎがつくった「わたし」のワンピース。お花もようにみずたまもよう。ことりのもようでそらをとんで、にじのもようになりました。まわりのけしきがかわるたび、ワンピースのもようもかわります。

色づかいのとてもきれいなかわい絵本です。



よんだえほん

よんだひ	えほんのなまえ
月 日	
月 日	
月 日	
月 日	
月 日	
月 日	
月 日	
月 日	
月 日	
月 日	
月 日	
月 日	
月 日	
月 日	
月 日	



平成30年12月 発行

なまえ
